

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年11月13日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）
【会社名】	株式会社電響社
【英訳名】	DENKYOSHA CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤野 博
【本店の所在の場所】	大阪市浪速区日本橋東2丁目1番3号
【電話番号】	大阪06(6644)6711(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 辻 正秀
【最寄りの連絡場所】	大阪市浪速区日本橋東2丁目1番3号
【電話番号】	大阪06(6644)6711(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 辻 正秀
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第2四半期連結 累計期間	第62期 第2四半期連結 累計期間	第61期 第2四半期連結 会計期間	第62期 第2四半期連結 会計期間	第61期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 9月30日	自平成21年 4月1日 至平成21年 9月30日	自平成20年 7月1日 至平成20年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成20年 4月1日 至平成21年 3月31日
売上高(百万円)	12,873	15,889	6,828	8,391	27,957
経常利益(百万円)	203	306	124	138	620
四半期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	105	131	68	69	9
純資産額(百万円)	-	-	20,052	20,067	19,754
総資産額(百万円)	-	-	25,564	28,546	23,881
1株当たり純資産額(円)	-	-	1,577.57	1,588.05	1,563.15
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( ) (円)	8.27	10.43	5.41	5.54	0.73
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	78.4	70.3	82.7
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	136	537	-	-	157
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	268	779	-	-	912
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	378	1,060	-	-	640
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	-	-	3,063	4,866	4,085
従業員数(人)	-	-	234	341	226

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平成21年4月1日より、梶原産業㈱が当社の連結子会社となりました。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社における異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	341	(148)
---------	-----	-------

（注）従業員数は就業人員（グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パート、派遣社員）は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	141	(31)
---------	-----	------

（注）従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パート、派遣社員）は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【販売の状況】

#### 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	前年同四半期比(%)
電気商品卸販売事業(百万円)	6,084	94.5
家庭用品卸販売事業(百万円)	2,056	-
電子部品販売事業(百万円)	159	61.0
電気関連システム化事業(百万円)	88	72.5
不動産管理事業(百万円)	3	110.7
合計(百万円)	8,391	122.9

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 当第2四半期連結会計期間における主要な相手先別の販売実績の総販売実績に対する割合は、全て100分の10未満であるため記載を省略しております。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
4. 平成21年4月1日より、梶原産業(株)が当社の連結子会社となりました。これに伴い、「家庭用品卸販売事業」が新たに加わりました。

### 2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

#### 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

##### （1）業績の状況

当第2四半期連結会計期間（3ヶ月）におけるわが国経済は、世界的な金融・経済危機による景気停滞局面の中で、企業業績の悪化や雇用調整等により個人消費が冷え込むなど、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

当社の主たる販売先である大手量販店業界におきましても、同業他社、業態を越えた異業種との企業間競争が一段と激化してまいりました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、厳しい経済環境に迅速に対応するため、オリジナル商品の販売強化等、積極的な営業政策を進めてまいりました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結会計期間の売上高は、家庭用品卸販売業の梶原産業株式会社が連結グループに加わったこともあり、83億9千1百万円（前年同期比22.9%増）となり、経常利益は1億3千8百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

また、特別損失として投資有価証券評価損1千4百万円を計上したこと等により、四半期純利益は6千9百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

事業の種類別セグメント別の業績（3ヶ月）を示すと次のとおりであります。

電気商品卸販売事業におきましては、冷夏による夏物商品の不振と同業他社との価格競争激化等により、売上高は60億8千4百万円（前年同期比5.5%減）となり、利益面におきましては、オリジナル商品の販売強化、経費の削減等を行い、前年同期より回復したものの、営業利益は7百万円（前年同期は営業損失6千7百万円）となりました。

平成21年4月1日付で新たに加わった家庭用品卸販売事業におきましては、売上高は20億5千6百万円、営業利益は3千3百万円となりました。

電子部品販売事業におきましては、販売先のメーカーの大幅な減産と設備投資の見直しの影響等により、売上高は1億5千9百万円（前年同期比39.0%減）、営業利益は1百万円（前年同期比75.2%減）となりました。

電気関連システム化事業におきましては、受注競争の激化等により、売上高は8千8百万円（前年同期比27.5%減）、営業利益は2百万円（前年同期比69.5%減）となりました。

不動産管理事業におきましては、手数料の増加等により営業収入は3百万円（前年同期比10.7%増）、営業利益は2百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

##### （2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間（3ヶ月）における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第1四半期連結会計期間末比8億8千3百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には48億6千6百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動により得られた資金は4億2千万円（前年同期間は3億9千2百万円の獲得）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益が1億2千5百万円（前年同期比9百万円減）で、売上債権の増加8億1百万円等により資金が減少した一方で、仕入債務の増加10億3千7百万円により資金が増加したこと等によるものであります。

投資活動により得られた資金は7億4千8百万円（前年同期間は2億2千万円の支出）となりました。

これは主に、定期預金の預入による支出6億3千4百万円があった一方で、定期預金の払戻による収入8億8千万円、有価証券及び投資有価証券の償還による収入5億5千5百万円あったこと等によるものであります。

財務活動により支出した資金は2億5千9百万円（前年同期間は3億5千万円の支出）となりました。

これは、短期借入金の純減額2億円、長期借入金の返済による支出5千9百万円があったこと等によるものであります。

##### （3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

##### （4）研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却、売却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,667,000
計	23,667,000

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成21年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成21年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,330,042	13,330,042	(株)大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	13,330,042	13,330,042	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成21年7月1日～ 平成21年9月30日	-	13,330,042	-	2,644	-	2,560

(5) 【大株主の状況】

平成21年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社イタワニ	大阪府池田市石橋2丁目8-1	1,715	12.86
電響社取引先持株会	大阪市浪速区日本橋東2丁目1-3	690	5.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	625	4.68
岩谷 伝枝	大阪府池田市	533	4.00
イチゴアセットトラスト (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	東京都中央区日本橋3丁目11-1	485	3.63
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1丁目2-26	411	3.08
中野 修	東京都中野区	329	2.47
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2-1	325	2.43
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 日本生命証券管理部内	300	2.25
日本瓦斯株式会社	東京都中央区八丁堀2丁目10-7	289	2.16
計	-	5,705	42.80

(注) 上記のほか、自己株式が693千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 693,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,536,000	12,536	-
単元未満株式	普通株式 101,042	-	-
発行済株式総数	13,330,042	-	-
総株主の議決権	-	12,536	-

【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社電響社	大阪市浪速区日本橋東2丁目1番3号	693,000	-	693,000	5.19
計	-	693,000	-	693,000	5.19

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	492	512	515	545	528	520
最低(円)	477	486	485	503	500	491

(注) 最高・最低株価は、株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役員の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
常務取締役	管理本部長 兼 経理部長	常務取締役	管理本部長 兼 経理部長 兼 情報システム部長	辻 正秀	平成21年10月1日

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G 有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,061	4,175
受取手形及び売掛金	6,852	3,961
有価証券	-	255
商品及び製品	2,927	2,334
仕掛品	5	6
原材料及び貯蔵品	2	2
その他	829	892
貸倒引当金	27	21
流動資産合計	15,652	11,607
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,575	1,488
土地	2,464	2,014
その他(純額)	1,57	1,45
有形固定資産合計	3,097	2,548
無形固定資産		
のれん	295	304
その他	34	23
無形固定資産合計	330	328
投資その他の資産		
投資有価証券	2,569	2,289
賃貸固定資産(純額)	1,3,415	1,3,393
長期預金	2,900	3,200
その他	661	601
貸倒引当金	81	86
投資その他の資産合計	9,465	9,397
固定資産合計	12,894	12,274
資産合計	28,546	23,881

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,629	2,250
短期借入金	1,150	900
1年内返済予定の長期借入金	237	-
未払法人税等	131	15
引当金	135	112
その他	289	223
流動負債合計	6,573	3,502
固定負債		
長期借入金	849	-
退職給付引当金	365	330
役員退職慰労引当金	100	74
負ののれん	198	-
その他	391	220
固定負債合計	1,905	625
負債合計	8,479	4,127
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,644	2,644
資本剰余金	2,560	2,560
利益剰余金	15,117	15,111
自己株式	390	389
株主資本合計	19,932	19,927
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	135	173
評価・換算差額等合計	135	173
純資産合計	20,067	19,754
負債純資産合計	28,546	23,881

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	12,873	15,889
売上原価	10,827	13,178
売上総利益	2,045	2,711
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 2,187	<sup>1</sup> 2,665
営業利益又は営業損失( )	141	45
営業外収益		
受取利息	50	20
受取配当金	33	28
仕入割引	204	227
投資不動産賃貸料	136	137
負ののれん償却額	-	22
その他	30	66
営業外収益合計	454	503
営業外費用		
支払利息	7	13
売上割引	52	75
不動産賃貸原価	26	54
為替差損	-	94
その他	22	4
営業外費用合計	109	241
経常利益	203	306
特別利益		
固定資産売却益	31	-
貸倒引当金戻入額	4	1
償却債権取立益	-	0
特別利益合計	36	2
特別損失		
投資有価証券評価損	31	14
固定資産除却損	0	0
減損損失	-	<sup>2</sup> 49
特別損失合計	31	64
税金等調整前四半期純利益	208	244
法人税等	103	112
四半期純利益	105	131

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	6,828	8,391
売上原価	5,748	7,027
売上総利益	1,079	1,364
販売費及び一般管理費	1,121	1,317
営業利益又は営業損失( )	41	46
営業外収益		
受取利息	27	7
受取配当金	6	3
仕入割引	97	117
投資不動産賃貸料	70	67
負ののれん償却額	-	11
その他	15	18
営業外収益合計	217	225
営業外費用		
支払利息	3	6
売上割引	26	40
不動産賃貸原価	13	29
為替差損	-	57
その他	7	0
営業外費用合計	51	134
経常利益	124	138
特別利益		
固定資産売却益	31	-
貸倒引当金戻入額	2	1
特別利益合計	34	1
特別損失		
投資有価証券評価損	23	14
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	23	14
税金等調整前四半期純利益	134	125
法人税等	66	55
四半期純利益	68	69

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	208	244
減価償却費	56	60
減損損失	-	49
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	5
賞与引当金の増減額(は減少)	1	1
役員賞与引当金の増減額(は減少)	29	10
退職給付引当金の増減額(は減少)	26	19
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	45	108
受取利息及び受取配当金	83	49
支払利息	7	13
投資有価証券評価損益(は益)	31	14
為替差損益(は益)	3	94
固定資産売却損益(は益)	31	-
売上債権の増減額(は増加)	909	701
たな卸資産の増減額(は増加)	114	217
仕入債務の増減額(は減少)	817	835
その他	43	365
小計	116	567
利息及び配当金の受取額	82	48
利息の支払額	7	13
法人税等の支払額	55	65
営業活動によるキャッシュ・フロー	136	537
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	408	688
定期預金の払戻による収入	108	1,146
有価証券の償還による収入	-	255
有形固定資産の取得による支出	3	5
投資有価証券の取得による支出	108	18
投資有価証券の償還による収入	50	300
固定資産の売却による収入	93	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 1,710
その他	0	58
投資活動によるキャッシュ・フロー	268	779
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	150	100
長期借入れによる収入	-	1,200
長期借入金の返済による支出	-	112
配当金の支払額	216	126
自己株式の取得による支出	12	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	378	1,060
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	37
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	510	781
現金及び現金同等物の期首残高	3,573	4,085
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,063	1 4,866

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
連結の範囲に関する事項の変更	(1) 連結の範囲の変更 平成21年4月1日に梶原産業株式会社の株式を取得し連結子会社といたしました。 (2) 変更後の連結子会社の数 連結子会社の数 4社 大和無線電器(株) 梶原産業(株) (株)システム機器センター (株)響和
会計処理基準に関する事項の変更	(完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。この変更による損益への影響はありません。

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	前第2四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めておりました「為替差損」は、営業外費用の総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することといたしました。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「為替差損」は3百万円であります。

	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
(四半期連結貸借対照表関係)	「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)の適用に伴い、前第2四半期連結会計期間において、「商品」として掲記されていたものは、当第2四半期連結会計期間は「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」として区分掲記しております。なお、前第2四半期連結会計期間の「商品」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ1,978百万円、28百万円、3百万円であります。
(四半期連結損益計算書)	前第2四半期連結会計期間において、営業外費用の「その他」に含めておりました「為替差損」は、営業外費用の総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することといたしました。なお、前第2四半期連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「為替差損」は3百万円であります。

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
一般債権の貸倒見積高の算定方法	前連結会計年度末に算定した貸倒実績率を使用しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
税金費用	税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額 3,608百万円 (但し、投資その他の資産の「賃貸固定資産(純額)」に係るものを含む)</p> <p>2. 受取手形から控除されている裏書譲渡手形は500万円であります。</p>	<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額 3,177百万円 (但し、投資その他の資産の「賃貸固定資産(純額)」に係るものを含む)</p> <p>2. 受取手形から控除されている裏書譲渡手形は530万円であります。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)																																
<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>給料手当</td><td>590百万円</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td>262</td></tr> <tr><td>配送費</td><td>516</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>108</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>8</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>55</td></tr> </table> <p>2.</p>	給料手当	590百万円	販売促進費	262	配送費	516	賞与引当金繰入額	108	役員退職慰労引当金繰入額	8	退職給付費用	55	<p>1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>給料手当</td><td>847百万円</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td>216</td></tr> <tr><td>配送費</td><td>699</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>126</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>11</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>1</td></tr> </table> <p>2. 減損損失 当第2四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて、減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仙台市若林区</td> <td>営業</td> <td>土地</td> <td>事務所・倉庫</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、営業資産については営業拠点別に、賃貸固定資産については賃貸物件別にグルーピングを行っております。</p> <p>時価が著しく下落していた営業物件に係る土地1件について、帳簿価額を正味売却価額まで減額し、当該減少額を減損損失(49百万円)として特別損失に計上いたしました。</p> <p>なお、正味売却価額は、固定資産税評価額を合理的に調整した価額により評価しております。</p>	給料手当	847百万円	販売促進費	216	配送費	699	賞与引当金繰入額	126	役員退職慰労引当金繰入額	11	退職給付費用	1	場所	用途	種類	その他	仙台市若林区	営業	土地	事務所・倉庫
給料手当	590百万円																																
販売促進費	262																																
配送費	516																																
賞与引当金繰入額	108																																
役員退職慰労引当金繰入額	8																																
退職給付費用	55																																
給料手当	847百万円																																
販売促進費	216																																
配送費	699																																
賞与引当金繰入額	126																																
役員退職慰労引当金繰入額	11																																
退職給付費用	1																																
場所	用途	種類	その他																														
仙台市若林区	営業	土地	事務所・倉庫																														

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料手当 292百万円	給料手当 417百万円
販売促進費 140	販売促進費 102
配送費 268	配送費 351
賞与引当金繰入額 57	賞与引当金繰入額 64
役員退職慰労引当金繰入額 4	役員退職慰労引当金繰入額 5
退職給付費用 56	退職給付費用 11

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目と金額との関係 (平成20年9月30日現在) (百万円)	1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目と金額との関係 (平成21年9月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 3,153	現金及び預金勘定 5,061
積立預金 90	積立預金 90
現金及び現金同等物 3,063	預入期間が3か月超1年以内定期預金 105
	現金及び現金同等物 4,866
2.	2. 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 平成21年4月1日に梶原産業株式会社の株式を取得し連結子会社といたしました。 取得いたしました梶原産業株式会社の資産・負債の主な内訳と当該取得による支出との関係は次のとおりであります。
	流動資産 3,254百万円
	固定資産 1,226
	流動負債 1,868
	固定負債 253
	負ののれん 220
	取得価額 2,138
	現金及び現金同等物 427
	子会社株式の取得による支出 1,710

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 13,330千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 693千株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	126	10	平成21年3月31日	平成21年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年11月6日 取締役会	普通株式	126	10	平成21年9月30日	平成21年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	電気商品卸 販売事業 (百万円)	電子部品販 売事業 (百万円)	電気関連シ ステム化事 業 (百万円)	不動産管理 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	6,441	261	122	2	6,828	-	6,828
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	114	-	0	3	118	(118)	-
計	6,556	261	123	5	6,947	(118)	6,828
営業利益又は営業損失 ( )	67	7	7	2	50	8	41

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	電気商品卸 販売事業 (百万円)	家庭用品卸 販売事業 (百万円)	電子部品販 売事業 (百万円)	電気関連シ ステム化事 業 (百万円)	不動産管理 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	6,084	2,056	159	88	3	8,391	-	8,391
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	16	16	-	3	3	39	(39)	-
計	6,100	2,072	159	92	6	8,431	(39)	8,391
営業利益	7	33	1	2	2	47	(0)	46

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	電気商品卸 販売事業 (百万円)	電子部品販 売事業 (百万円)	電気関連シ ステム化事 業 (百万円)	不動産管理 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	12,152	522	192	6	12,873	-	12,873
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	181	-	3	6	191	(191)	-
計	12,334	522	195	12	13,064	(191)	12,873
営業利益又は営業損失 ( )	183	16	11	4	151	9	141

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）

	電気商品卸 販売事業 (百万円)	家庭用品卸 販売事業 (百万円)	電子部品販 売事業 (百万円)	電気関連シ ステム化事 業 (百万円)	不動産管理 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	11,200	4,251	273	158	5	15,889	-	15,889
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	26	16	-	4	6	53	(53)	-
計	11,227	4,267	273	162	11	15,943	(53)	15,889
営業利益又は営業損失( )	49	79	8	12	4	38	6	45

(注) 1. 事業の区分方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品又は事業内容
電気商品卸販売事業	家庭用調理機器、浄水器、シェーバー、ヘアードライヤー、マッサージ機、オイルヒーター、電子カーペット、ガスコンロ、照明器具、住居生活関連商品等
家庭用品卸販売事業	キッチン・ダイニング用品、清掃用品、バス・サニタリー用品、ランドリー用品、収納用品、行楽・アウトドア用品等
電子部品販売事業	コンデンサー、スイッチング電源、コネクター、抵抗等
電気関連システム化事業	ビル防犯機器、インターホン設備機器等の販売及び設計施工等
不動産管理事業	営業設備及び賃貸設備の土地、建物の管理、損害保険代理業等

3. 事業区分の変更

平成21年4月1日に梶原産業株式会社の株式を取得し、連結子会社といたしました。

第1四半期連結会計期間に「家庭用品卸販売事業」を営む梶原産業株式会社を、新たに連結範囲に含めたことに伴い、同事業が加わりました。

4. 第2四半期連結累計期間に、当社が梶原産業株式会社の株式を取得したことにより、家庭用品卸販売事業における資産の金額が41億2千5百万円増加しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）並びに前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）

本邦以外に連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日至平成21年9月30日）並びに前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）

海外売上がないため、該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動がないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

企業集団の事業運営において、重要なものとなっているデリバティブ取引はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)		前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,588.05円	1株当たり純資産額	1,563.15円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	8.27円	1株当たり四半期純利益金額	10.43円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
四半期純利益(百万円)	105	131
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	105	131
期中平均株式数(千株)	12,717	12,636

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	5.41円	1株当たり四半期純利益金額	5.54円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
四半期純利益(百万円)	68	69
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	68	69
期中平均株式数(千株)	12,711	12,636

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

(リース取引関係)  
該当事項はありません。

## 2【その他】

平成21年11月6日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額.....126百万円
  - (ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭
  - (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成21年12月10日
- (注) 平成21年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月10日

株式会社電響社  
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 茂善 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社電響社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社電響社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月9日

株式会社電響社  
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 茂善 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 哲雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社電響社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社電響社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれておりません。